

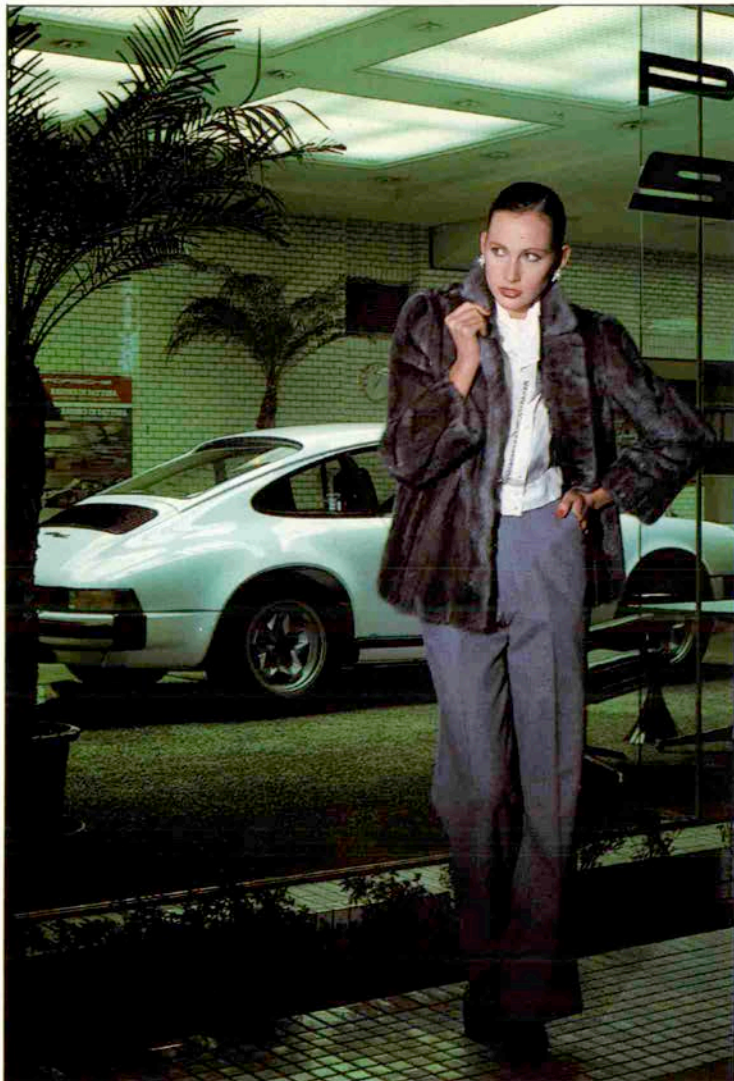
神戸の風色

KOBE●FUSHOKU

堀内 初太郎 NO・27







Elegance in Kobe

新しい自分を発見するために
本物をセレクトするところを
磨いてゆきたい

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服



さんちカレディスタウン

神戸市中央区三宮町1丁目10番1号

☎(078)391-3886

本社

神戸市中央区元町通6丁目7番8号 明邦ビル

☎(078)341-8041代



華やかなパリの
エスプリをお届けする
Windsor '82年春夏物 Collection



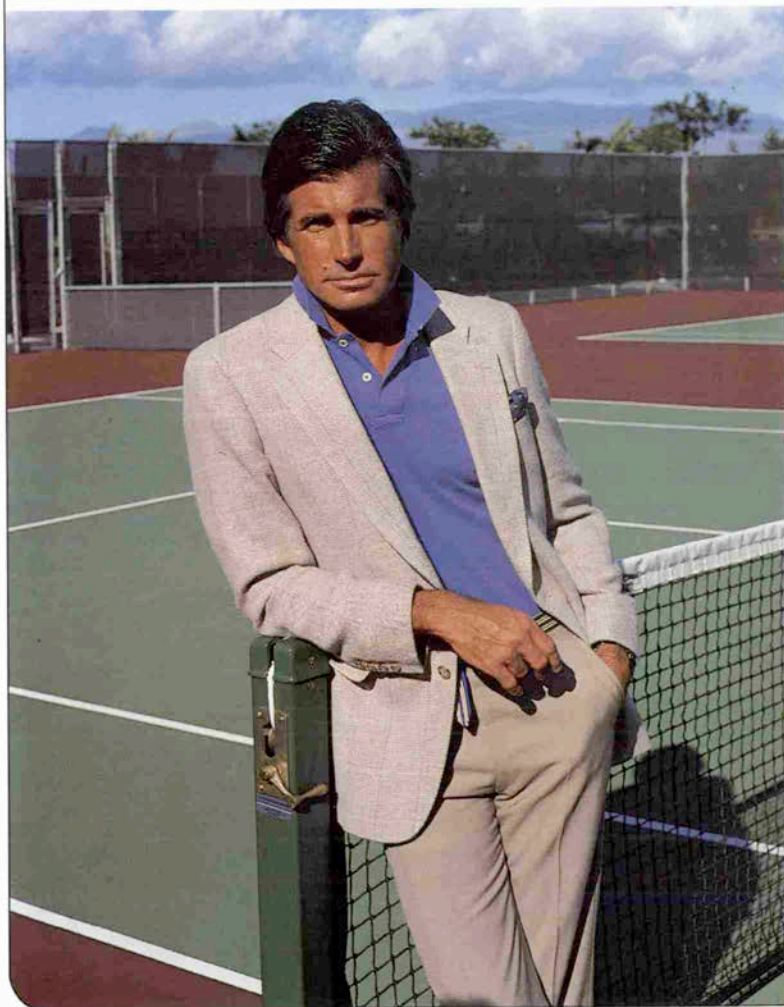
クチュール&ブティック

ウインザー

山田 昌子

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目
さんプラザ2F TEL(078) 331-7952

カジュアルライフに男らしさと個性が光る。



Melbo

アダルト・ペア・ブティック

神戸 **異人館** 通店

北野坂異人館通り

☎ (078) 222-2581

エグゼクティブ・サロン

神戸 **ポートピア・ホテル** 店

ショッピングアーケード バレビアンカ 2F

☎ (078) 302-1868

トータルメンズ・ショップ

須磨 **パティオ** 店

須磨パティオ1番館2階

☎ (078) 791-7177

伝統の心を縫う
手造りの風格



洋服ノ粹

工渡邊

〒651 神戸市中央区磯上通 8-1-32 グリーンビル1F TEL (078) 251-8501 代

東京—大阪—神戸—姫路

日持ちのする上生菓子

沙羅双樹

沙羅双樹

しつとりと甘さをおさえた
大納言小豆の羊かんにくる
まうて大粒の丹波栗が入っ
ています。郷愁さそう淡い
甘味が、なつかしく心をど
らえます。

菊のうにけ

厳選された丹波栗の風味を
最高に生かした栗きんとん。
つややかな姿に包みこまれ
た白い求肥が、まるやかな
味をいつそうひきたててい
ます。

花
紋
もん

山芋をすりこんだ薯蕷羹に
大納言小豆をあしらった粋
な和菓子、上品な風味とど
もに、日本の情趣がやさし
く伝わります。



新発売



沙羅双樹詰合
9コ入 1500円

お好みに合わせて各種お詰め合せ致します。(1000円～5000円)



神戸屋月堂

神戸市中央区元町通三丁目三番十号
電話 (078) 332-1555

これは神戸を愛する人々の雑誌です。
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帳です

表紙／小磯良平
セカンドカバー／僕の見た神戸（39）／西村 功

美術部門／木下佳通代 ●舞台芸術部門／加藤きよ子
ファクション部門／太田タマコ

第110回ブルーメール賞受賞者発表

文学部 伊勢田史郎 / 君本昌久 / 安水穂和

53 喜子 経済ポケットジャーナル

58
柏井健一／鬼塚喜八郎／木口衛／中内力／北川
有馬成時記（3月）

4767
コ
ウ
ベ
・
・
フ
ア
ツ
シ
ヨ
ン
・
ス
ポ
ツ
ト
ミ

811716
C
O
F
F
E
E
B
R
E
A
K

六甲山一〇〇コース
1802 81 志久針/寺本
金剛童寺山/岡田
弘

441427
KFS ニュース
孟さんの風の吹くまま(3)/高橋 孟

菊池佐紀／絵・貝原六一（第6回神戸女流文学賞佳作作品）

北野町カイドマツプ
にちわ留学主へ(3)
アメリカノルボ
ファイター・白牛百合子

目次作品 / glass-water / 植松奎二

glass-water

●ハイセンスなショッピング・ストリート●元町1番街●

京菓子司二つ茶屋が 3月下旬新築オープン



●ごあんない

1F/京菓子・喫茶・大衆和菓子実演販売
和菓子ひとすじに65年。老舗のまろやかで上品な風味をお届けいたします。

2F/とんかつ・柚おめん・そば

名物とんかつに柚おめん、そばなど多彩なメニューを加えました。お気軽に滋養たっぷりの本格派の味をお楽しみください。すきやき、しゃぶしゃぶ、かにすき、うどんすき、ぼたん鍋などもあります。各種会合にもご利用ください。

●ごあいさつ

れんが色の舗道とルナケードで神戸っ子に親しまれている元町1番街に御菓子司二つ茶屋が新築オープンいたします。

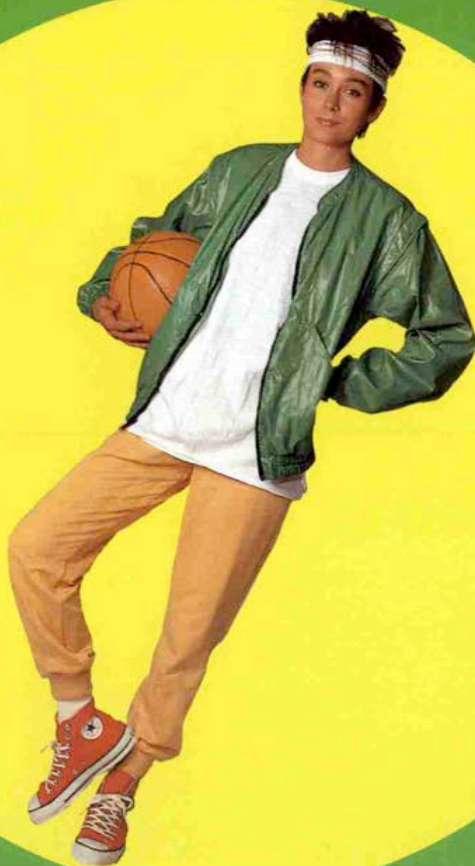
厳選された最高級材料を用い、アルカリ性イオン水を全商品に使用いたしております。真心こめて作りあげていく伝統の和菓子の味を守り続け、より一層努力を重ねていきたく存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

株式会社二つ茶屋社長
奥田 康雄

株式会社 二つ茶屋

〒650 神戸市中央区元町通1丁目8番4号 TEL (078)331-0755(代)

美しくなることは、オトナになることです。



リザ・サロン
ルイ・ミッシェル
CABIN
フランス・アンドルヴィ
クロードレマ
ダイアナ
Pia
ルベール
ランプ
美呂
CAN

ゲルラン
東京屋
新宿・高野
BONフカヤ
ザ・コレクション
ココ山岡
ブランコ
ホットマン
エタム
三愛
電話078033291698

おかげさまで6周年

春の公園市セール

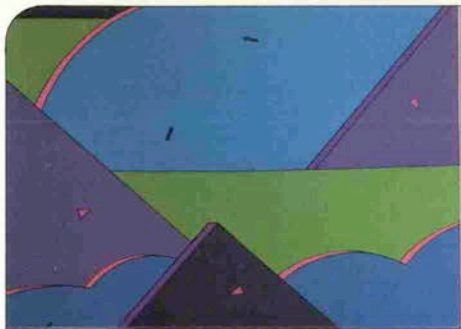
3/20^①—4/4^②

FASHION
PARK

神戸三宮(さんプラザ・センタープラザ)

3F

営業時間 AM11:00—PM8:00



Léo Marciano
PARIS



パリのインベストメント・クローズ

レオ・マルシアーノ

特選品サロン 3階^ノパレロアイアル^ミにデビュー。

シルク素材を中心にリネン・コットンなど選りぬきの天然素材によるコーディネート・ストーリー。

知性 美とエレガンスあふれる'82春・夏コレクションが毎日見えます。

ブレタポルテならではの着ごちの良さと見事なシルエットはアダルトな女性のインベストメント・クローズとして脚光を浴びています。

新装なったサロンで彼のクリエイションにふれてください。

708 着ごちのファッションテーマ
自然 私好



神戸三ノ宮
そごう

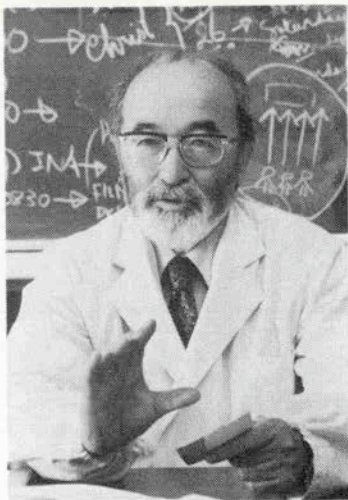
神戸 (078) 221-4181

☆私の意見

あなたの10%を PHD運動に

岩村 昇

〈神戸大学医学部教授〉



国際ロータリーの国際理解賞を昨年6月にいただいたのを機会に、私の経験から提唱させていただいたのが、PHD運動です。

私が20年暮したネパールを中心に、アジアでは75%の人々がギリギリの生活をしています。20年前と比べると何と日本では節約の美德が消え失せ、消費、使い捨てをしないと経済が成長しないということが当り前のようになっていました。ジェット機で2、3時間のところでは、節約をしてお互いに分け合い、自分が我慢して自分より困っている人たちのために助け合っていかなければならないという現状です。しかし、子供や若者たちはイキイキしています。そんなアジアの国々では、日本の工業産品があふれています。つまり日本から買って下さっているおかげで、日本は今の快適な暮しができるのです。

アジアでは、自分たちの貧困を解決する経済開発をし、栄養失調の問題を解決する食糧生産のための人材養成をしなければなりません。そのお手伝いをするために、私たちは、今まで自分のためにしか使っていなかった時間や知能、お金などの10%をささげよう、平和 (Peace)、健康 (Health)、人間開発 (Human Development) のために10%をささげて、アジアの草の根のリーダー、ボランティアの人材養成訓練に協力しようというのがPHD運動です。今夏、アジアから農業青年を迎え、多紀郡篠山町の研修施設「農文塾」で勉強していただく予定です。そこで農業の技術だけでなく、経営のノウハウも身につけていただき、国に帰って自分の農業の技術内容、経営内容を高め、経済的に自立するだけでなく、その成果を自分たちの地域に10%おすそわけをする草の根のボランティアになつてもらいたいということです。10%をささげる運動から「生きることは分かち合うこと」という人間本来の生き方を取り戻し、アジアの人たちと共に生きる21世紀を作りたいと思っています。

BM ブルー・メール賞

副賞各拾万円
海の女神ブロンズ
新谷瑠紀制作

★月刊神戸っ子21周年記念文化賞／第11回受賞者発表

郷土を愛する人々の雑誌、月刊「神戸っ子」はこの3月号で21周年を迎えました。これもひとえに皆さまの暖かいご支援の賜と感謝いたしております。

さて、月刊「神戸っ子」では、神戸の文化を進めるため、ここに第11回「ブルー・メール賞」（青い海）を設定し、各部門別に選考座談会を行ったうえ、左記の5人の方々に賞（彫刻家新谷瑠紀氏による海の女神のブロンズ像）をお贈りすることになりました。また、副賞には地元企業のご協力により、各部門の受賞者に拾万円が授与できることになり、心からお礼申し上げます。

地域社会の中から世界に通じる文化を育みたく、力いっぱい努力してまいりたいと思います。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

△授賞式は4月8日（木）神戸国際展示場／月刊神戸っ子21周年記念パーティで行います▽

□文 学 部 門

選考委員

伊勢田史郎・君本 昌久・安水 稔和



季村 敏夫

△詩人▽

季村敏夫の詩は、容赦なく、おのれの感情を疾走させている。無論そこには、はらはらする位、思入れのあることも免れ難いが、必死になって生きようとする、詩の在をとらえていて、現代詩には稀な感情の復権を追っているところが魅力的である。

（君本昌久）

□音 楽 部 門

選考委員

吉村 一夫・柴田 仁・小石 忠男



伊藤 ルミ

△ピアノリスト▽

いかにも神戸っ子らしい神戸っ子のピアノリスト。八一年はよく勉強よく活躍した。リサイタルもあったが諏訪根自子を神戸にひっぱって来て、この大ベテランとよく渡りあって、その伊藤ルミを格別に評価したい。

（柴田仁）

□美術部門

選考委員

赤根 和生・増田

洋・草野 拓郎・乾 由明



木下佳通代

〈美術家〉

木下佳通代さんの作品が、個性の豊さと普遍性とを兼ね備えているのは、彼女の作品が繊細な感覚の表象であると共に、知性が生み出す強靱な造型であるからです。これからさらに深めさらに広げること、ブルーメール賞の評価を高めてくれると思います。
(増田洋)

□舞台芸術部門

選考委員

佐野 漣箕・名生 昭雄・岡田 美代



加藤きよ子

〈モダンダンサー〉

「清姫」「夢野」「さくら」の新鮮な安定した実力と「ひびきのねこ」「アリスの夢」のこどもたちをのびのびと踊らせた指導力のうまさと面白さは抜きんでていた。可能性を豊富に秘めたこの逸材こそ大切に育ててほしいと願っている。
(佐野漣箕)

□ファッション部門

選考委員

福富 芳美・森本 泰好・藤本ハルミ・小泉美喜子



太田タマコ

〈アートフラワー・Vデザイナー〉

太田タマコさんは、ただ単にアートフラワーの作家というのではなく、彼女独特のファンタジイの世界を、布を染め型を創り、舞台空間に花ひらかせて見せてくれます。彼女は舞台の魅力にとらわれたすばらしいアーティストだと思ふ。
(藤本ハルミ)

★ブルー・メール賞協賛企業

株式会社 淡路屋 角南商事 株式会社
財団法人 井植記念会 株式会社 ところ神戸店
伊藤ハム栄養食品株式会社 株式会社 大丸神戸店
UCC上島珈琲本社 株式会社 太陽神戸銀行
ウシオ工業株式会社 田崎真珠株式会社
オールスタイル株式会社 バンドー化学株式会社
カネボウベルエイシー㈱ 株式会社 南インターナショナル
カワノ株式会社 株式会社 ユーハイム
株式会社 神戸風月堂 株式会社 ワールド
神栄石野証券株式会社

△50音順▽

THE KOBECCO 21th

月刊神戸っ子創刊21周年記念パーティへのお誘い

'82 世界の酒まつり

と き 4月8日(木) 午後6時～8時30分

受付 午後5時30分

ところ 神戸国際展示場 2F

〈ボートライナー市民広場駅西〉

かいひ 8,000円 〈飲んで食べて踊って〉

プログラム

★第11回ブルーメール賞授賞式

受賞者 季村 敏夫(文学部門) 伊藤 ルミ(音楽部門)

木下佳通代(美術部門) 加藤きよ子(舞台芸術部門)

太田タマコ(ファッション部門)

★昭和57年度酒徒番表彰式

横 綱 田崎俊作 田辺聖子

張出横綱 畑崎廣敏 中内 力 鴨居 玲 筒井康隆

★SHOW 弘田 三枝子

古谷充とザ・フレッシュメン

●お問い合わせ

月刊神戸っ子 / 神戸市中央区東町113-1 大神ビル7F ☎(078)331-2246



随想

懐しや神戸辯

兵庫ことばは何とてい

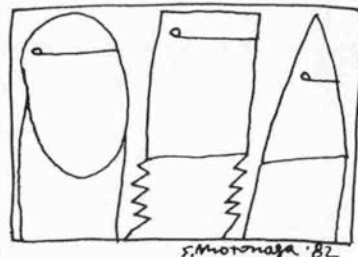
楠本 憲吉

△俳人△



啄木の「ふるさとのなまり懐し……」の歌ではないが、大阪生まれ神戸育ち東京ぐらしの小生にとって、東京でたまに耳にする神戸辯はこの上もなく懐しいものである。そして同じ関西辯でも、神戸辯はすぐ分る。

「京都ことばはそうどっか、兵庫ことばは何とてい」ということばがあるように、神戸方言というものはたしかにある。繰り返しいうようだが、私にとってまことに懐



カット/元永定正

しい少年時代のことばである。

「あいによろかこいにしようか」
「あいに」(時に、稀に)「あおぬく」(あおむく)「あたうるさい」
「あったんか」
「あっぼん」(帽子)、「あとげつ」(先月)「あまさん」(西洋人の家に働く女中さん)「いきまほ」「いっこも」(少しも)「うさうさいう」(ぶつぶつ言う)「うっとこ」(私の家)「うんと」(たくさん)「えーしゅ」(金持)「おーきにはばかりさん」「おいど」(尻)「おかしん」「おっけい」(大きい)「おくもじ」(漬物)「おくんなはれ」「おちよくる」(嘲弄する)「おとこ」「おとんぼ」(末の子)「おなごし」(下女)「おんた」(雄)「おんなしよに」
「がいがわるい」(都合が悪い)「かだら」(からだ)「かっこむ」(食う)「からけつ」(何もないこ

と)「かんてき」(七輪)「きずつない」(気苦労な)「ぎつちよ」(左利き)「きびしよ」(きうす)「きりもん」(着物)「ぎゅーちち」(牛乳)「きょうび」(今日此の頃)「きりばん」(まないた)「きんの」(昨日)。

「ぐつ」(都合)「くわしん」(菓子)「けやす」(消す)「けんたい」(当然)「こぐちから」(片端から)「くつおい」「くつお」(御馳走)「こつとい」(牡牛)「こないに」(こんなに)「これほか」「さかちん」「さかとんぼ」「さくい」(脆い)「さつき」(先程)「さらせ」(為せ)「しくさる」(する)「しこたま」(たくさん)「じつきに」(すぐに)「しな」(際)「じょーさん」(沢山)「じよらくむ」(安座する)「しんたく」(分家)「すか」(あてはずれ)「ずつない」(苦しい)「せーんど」(長い間)「せぶる」(ねだる)「せんざい」(庭)「たいがいにしとけ」「たいてやない」「だれど」「だまくらかす」「だんじり」(山車)「だんない」(差支えない)「ちぼ」(楯摸)「ちよーず」(トイレ)「ちよか」(おどけもの)「ちよろくさい」「てんこもり」「どーらい」(大変)「とーに」「どだい」「とんちき」(馬鹿)「なにやかし」「なりがわるい」「なんせ」「ねき」(そば)「ねっから」「ねま」「ののさん」(神仏)「はし

こい」「ばばい」「パラス」(砂利)「ばんけ」「ひなか」(半日)「へこちん」(手違い)「へらへつと」(いくらでも)「ほかす」「ほかから」「ほたえる」「まどう」「もみない」「やぜん」(昨夜)「よこすっぽ」「らっちもない」「わや」「なんのこっちゃ」(何とつまらないことだ)「行くのんけ」「あいつ遊んでけつかる」「どつきまわしたるか」「なにしとん」「いっとつてや」。

神戸の土着人、播州、四国、大阪、和歌山などの人々の持つ方言の混合酒、これが神戸辯ではあるまいか。ぎょうさんに猫いやはるは、春灯^{はるとし} 万太郎

仕事について

島 京子

△作家△



昨年初め、作品集(母子幻想・構想社刊)を出してから、二、三の編集者から創作への誘いがあった。ちょうど、数年前からあたためていた素材があり、この機会に作品化するに決め、夏から書きすすめていた。

百五十枚ほどのものが、年末にはほぼ出来上ったが、これは第一

稿である。

年来グズの性癖が強まっておりその推こうにあれこれと迷う。なかなか原稿の整理もおぼつかない有様だ。

書き上げたばかりの作品というのは見なれた景色のようで、ころににつきすぎているため、しばらく目を転じて、感覚を冷やす期間が必要である。不器用なくせに人一倍凝り性でもあるので、果していつ気に入ったものが出来るか、待っていて下さる人の期待にそえるものが出来るか、心細くもある。奥野健男氏は、「おもしろく達者すぎる」といわれ、構想社の坂本一亀氏は「文章のうますぎる人」と私のことを評される。このすぎるとい言葉に、私はこだわりのをもつ。

独自の世界をうまく書けば、作品世界は堂々と存在価値を示すだろう。今後の作品ではこのすぎた点を考慮に加えなければならんだと思っている。

第一稿の成った作品は、神戸出身者で、途方もない自我、稀有な行動力、それらが一種の光彩となる沖山秀子の生きざまをとりあげてみた。

一つの変った形での教養小説として描いてみたいと考えたわけである。

女の目から見た彼女の感動に価

するほどの奔放な性格が現代人にとって、遠い存在となった太古の女の性そのものであると私には思える。それが衰弱し、抑圧された現代人の性のありようから見れば穹窿(きゅうりゅう)に輝く太陽のように、瞠目すべき、はつらつさを持つのである。

彼女が無意識に古代人の姿を顕現していることに、私は小説を書くものとしての意慾をそそられたのである。

また、もうひとつの主題として、私は自分の亡くなった家族についての作品をも書きたいと思っている。

家族の中でも、先年列車事故で死去した姉のことである。姉についての記憶をたどれば、昭和初期の時代相と家族の姿が必然的に浮かび上ってくる。

ここに納められた幾枚もの記憶の絵は、私にとっては切実なものであり、その作品は深く私の存在にかかわってくるべきものであるだけに、いままでも幾度か書きあぐんだのであったが、どうやらその機が熟しつつあるような気がしないでもない。

小説を書きはじめてから、私は私なりの道を歩んできた。これからも同様であるが、書くべきことはいつも胸に抱いており、それはあくまでも人にすすめられて書

くべきにはあらず、自らの好みに従うのみと思っている。

墨との出会い

望月 美佐

〈書道家〉

人生はあらゆる「出会い」によって成長する。自然との出会い、人間との出会い、そして物との出会いである。

私が書の世界に住むようになると、数多の調度品の中でも特に身軽に置かれ、また、愛玩するのは、筆・墨・硯・紙の文房四宝と呼ばれるものである。

第一回日展出品の為に、清水の舞台から飛び降りたつもりで買い

もとめた宋端溪の硯は竹の子型をした可愛いもので、じつと手のひらにのせていると赤ん坊の肌にふれているような感触がする。

筆は現在、五・六百本にもなるだろうが、羊・狸・鹿・馬・白鳥にバンダ・スカンク・孔雀など動物という動物の毛はほとんど揃えられ、赤ちゃんの頭の毛の筆も十本以上にもなった。

紙も日本の和紙は勿論、中国、韓国、外国へ行くたびに珍しい紙を買ったり、漉いてもらったりして、三階の書庫は紙だらけ、今に天井が落ちないかと心配である

一月中旬、ちよっとしたことかある人の蔵にねむっていた、三百丁あまりの墨を買った。弟子達にも分けているが、大小とりまぜ五十年から七十年前のものなので、大変に軽く、しっとりとした墨色が美しい。

昭和三十五年頃、私は京都のある店で墨をみつけた。洪武十二年監製、目方百十二匁、程君房造と読まれ直径二十匁の円型の豪華な墨で、裏にはぎっしり漢詩が書かれ、表は中国の建物の図柄で、箱の中の墨拓には「外狩素心庵図説二見ユ」と書かれてある。

「十五万円です。」といわれ、引揚者で貧乏な私にはとても高嶺の花と思われたが、この機会をのがせば一生この墨は私のものにはな

らないだろうと、私は全財産の一万円を渡し、その足で京都の友人に借りに行った。友人は墨にそんな大金を払うなんて、とあきれ顔であったが、さすが「糸六」という老舗の若奥さんだけに気よく貸してくれ、そのお陰で今は私の第一の宝物となった。

作品を書くたびに、ひとすり、何千円と身をすり減らされるおみいで使っているのだが美しい円だったのが今は変型してしまった。十年程前に京大の学者の方が、中国の宋時代の墨を科学的に分析して、十分の一の値段で外観そっくりの墨を作ったことがあった。早速買って使ってみたが、まるで感触も墨色も深みがなく駄目だった。

墨には松煙と油煙とあり、燃やして採った煤を膠で固めたものが墨となるのだが、木灰の中に埋めて水気をととり、二十日から一カ月は灰をとりかえながら乾燥さし、干し柿のように葉でくくって吊るし半月から三カ月かかって完全に乾かすという、貴重なものである。

化学、文明の発達した現代でもこの何百年、何千年の歳月を生きてきた墨には兜をぬぐより他はなく、妖しい輝きを発する墨の世界に魅せられて今日まで生きてきた私だが、出会いの貴さをしみじみかみしめている。



2月6日生田神社会館で開かれた美佐の会うたけで花魁道中に扮した一行

お菓子づくりの大好きな 職人達の集まり



フーケ庵店内



西三條店
フーケ
Fouquet's

〈当店自慢・フリアンディーズ〉
ティータイムに気軽に添
えて戴きたいフリアンディ
ーズ。大切な方々への贈り
物、おもてなしにご利用い
ただきたいと思ひます。
地方発送も承っております。
(12ヶ 1,500円)

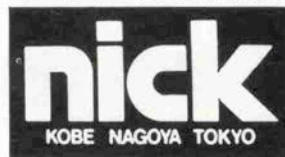
サロンド・テ・フーケ(中山手店) (9AM~9PM)
神戸市中央区中山手通3丁目16番6号 ☎(078)221-2290
カフェド・フーケ(元町店) (9AM~8PM)
神戸市中央区栄町通1丁目2番15号 ☎(078)392-0678
フーケ庵(廣防山店) (9AM~8PM)
神戸市中央区山本通4丁目22-28 ☎(078)222-0707

各店舗喫茶室を設けております。年中無休



店創りの第一歩は 信頼できる業者選びから

心の通う店創り



神戸日建

店舗設計施工・商業施設・調査企画

本社(設計室) TEL.(078)252-1321(代)

神戸事業部 TEL.(078)251-3525(代)

☎このような時お電話ください。
ご相談、プランニングは無料でお受けしています。

- 「店が古くなり、簡単な改装で時代にマッチしたものではないだろうか」
- 「客層が変わった。改装すべきだろうか」
- 「近くにテナントビルができた。出店したいが立地条件、営業面でアドバイスがほしい」

△その31▽ 壮麗なる美術館

敦煌・莫高窟

板東 慧 (生活文化研究所所長)

昨年十月、中国西安からシルクロードを西へ敦煌に旅した。

敦煌は、いうまでもなく、未だ東西交易路が陸路しかなかった漢から唐、宋代に世界で最も栄えた市場都市の一つであった。「絲綢之路」の東の入口として、ここには碧眼紅毛の人々がキャラバンを連ねて、宝玉や絹などを交易するためにひしめいていたといわれる。そのもっとも盛んな四世紀半ばから、鳴沙山の東岩壁に長さ一・六料にわたってうがたれた石窟寺院——莫高窟が、いわゆる敦煌壁画

の所蔵庫なのである。かつては千にのぼる室数があつたといわれるが、現在までに四九二が保存されている。

莫高窟は、敦煌のまちから車で小一時間、ゴビ灘の一隅のオアシスに面しており、美しいせせらぎから直接、白楊やボプラなどが茂り緑豊かである。三危山と鳴沙山にはさまれたこのオアシスは、遠くからみても、まさかあのような珠玉の仏教芸術がかくされているとは思えない。風が吹くと鳴沙山の砂はサラサラと落ち、何年か放っておけば、莫高窟が砂の下に埋まったとしても不思議ではない。

元代まで続いた莫高窟の造営は明代にはいつて忘れられ、一九〇〇年王元簾が偶然に見るまでその大半は砂の下に眠り続けていたわけである。王が発掘したときには、時の清政府も現地の行政官も関心をもたず、世界の探險隊がはいり出して急速に保存の動きが起つたと伝えられている。スタインやウオーナーなど欧米人が、切りとって持ち帰った壁画の跡が痛々しい。

敦煌の民衆は、昔から一年に一度、ここで香会なる祭を催してきたが、莫高窟の価値は必ずしも認識されていたとはいえない。

しかし、インドの仏教伝来とともに移入されたこの石窟寺院という形式は、果して彼らが当時から意図したかどうかは明らかでないが、絵具といい、塑像といい、実に巧な保存技術である。一五〇〇年にわたって埋もれたことが保存にとつて最大の貢献であつたと思われるが、この地形と条件は保存技術上からみても素晴らしい。プロ文革による破壊も近くの寺までには及んだようだが、ここまではきていない。今、国の保護政策がゆきとどいているが、観光政策にも積極的で、来年には敦煌のまちと莫高窟の間に空港とホテルが建てられるという。広いゴビ灘の中で土地確保に問題はないが、気楽にいけるようになると、苦勞して辿りついて始めてわかるこの桃源郷の魅力が失われまいかと気になる。厳しい自然と闘い、肥沃でない土地にへばりついて生きてきた民衆とこの美しい石窟は、その厳しさの中におかれて一段と光彩をはなっているように思える。地域の文化は、その地域の背景を自らも体験して初めて理解の道が開けるのではなからうか、とそのたたずまいを見て痛感したものである。



緑豊かなオアシスの莫高窟

□連載エッセイ／私のひろいもの△35▽

老友

竹中

郁△詩人・絵も▽

アリスさん ルイゼさん

おぼえてますか この歌を

大正五年の夏「お伽團」という名で

子供ばかりの旅行会が瀬戸内海を旅行した

備後の沖の朝げしき

阿武兔岬の観音やS字をなせる島の合あひ

縫いつつゆけば尾の道市

瀬戸を出づれば呉軍港

要害かたき湾内に 見よや軍艦駆逐艦

威風堂々よこたわる

とつづいてゆくのだが

宮島や別府温泉 琴平神社

高松の栗林公園 屋島

よくぞまあ一週間からの旅を

たしか金十五円でつれていってくれた

物の安いころとはいえ

あんたら二人は レース織の服を着て

まるで モンブランの雪といたかった

そのモンブランの雪のポケットから

日本のちり紙がのぞいてみえていたのも

おもしろかったですね

あれから六十六年くらい経ったわけだが

十銭だった散髪料が二千三百円となって

今日の日本は世界の経済大国になった

モンブランの雪はとけて

ライン川へ流れこんだか

ドナウ川へ流れたか

杳として消息をきかない

神戸の裏山の外人墓地を

テレビがうつしだしているのをみて

アリス ルイゼの二人を思いだした





連載エッセイ
折々の神戸〈XI〉

心さわぐ 午後

多田 智満子〈詩人〉
絵／石阪 春生

ぬし……というぐち話からはじまって、長々と女
どうしのおしゃべりがつづいたが、やがて彼女は
ちょっと声をひそめた。

日頃穴ごもりの熊のように無精たらしい顔つき
で家にひきこもって暮している私のような人間で
も、たまには自分にかかわる外界のニュースが耳
に入ってくる。一月十二日の午後はめずらしく刺
戟的なニュースが三つ重なって、私の心を波立た
せた。

まず最初は午後三時頃、麻布にアトリエをもっ
ている山本美智代さんからの電話だった。美智代
さんは私の『鏡のテオリア』という本の装丁を
してくれた画家——という以上に、つきあって楽し
い友人である。泥酔してタクシーから降りるのに
顔からおりた、という武勇伝の持主で、もし神戸
に住んでいたら、『神戸っ子』の酒徒番附の大関
が関脇にランクされること疑いない人物である。

昨秋父君を亡くされ、まだ喪中の身で、「この
ところろくな話がないのよ。友だちの親も次々死

——じつはヘンリックさんがつかまってるの。
私はぎくりとした。ヘンリックさんというのは
ワルシャワ大学の東洋学研究所の講師で、歌舞伎、
とりわけ鶴屋南北の研究家であり、先年、ポーラ
ンド首相来日の折も、ワレサ氏来日の折も、通訳
として日本にきている。美智代さんの友人なので
私の家にも彼女がつれて遊びにきたことがあるの
だ。日本語に堪能なこのポーランドの学者と南北
劇のグロテスク美学についておしゃべりをした記
憶がまだなまなましい。

——どうして？ やっぱりあれで？

——そうよ、あれよ。彼、ワルシャワ大学で
「連帯」の活動家だったから。

しかし逮捕というほどのことではなく、出頭命令がきて、出頭したきり帰してもらえない、という状態らしいが、それにしてもこれはちょっと胸の痛むニュースだった。

電話を切ったあともしばらく気になって考えこんでいると、また電話が鳴って、こんどは編集者I氏からである。私が昨秋白水社から上梓した『魂の形について』という小著に、Iさんの友人の舞踊家が興味をもち、蝶や鳥になった魂をテーマに、ぜひ舞踊を創作上演したい、という話がかねてきいていた。きいていたどころではない。

二月前に上京したとき、I氏にその舞踊家三浦一壮氏を紹介され、彼の主宰する舞踏社のために舞踊台本を書いてもらえないか、といわれていたのだった。

しかし私は舞踊のことは何も分らない上、以前にも『鏡のテオリア』の鏡のイメージで演劇台本を作ってはしいと渋谷のさる劇場の支配人に依頼されながら、無能な上に無精なので、全く手もつけないままお流れになってしまったという前科がある。だからこんども、翼を生やした魂のテーマで舞踊を、などと言われてもあまり気のりがせず、Iさんが電話をくれるまではとんど思い出しもしなかったのである。

しかしIさんにあらためて口説かれてみるとやや心が動いた。台本といっても戯曲のように科白があるわけではないから、簡単な筋書だけ作ってくれたらいい。『魂の形について』の中には、日本、中国、ギリシャ、エジプト、インドと、あまりにも多様な魂の相がとりあげられているので、どうまとめるか、むずかしくて困っている。ぜひ私に

形をつけてほしい——Iさんのやりわりじわりとした説得に私はとうとう重い腰をあげる気になった。筋書だけ、作ってみましょう、あとはそれを叩き台にして、皆さんで考えてみて下さい、と。

その電話を切ったのがもう夕方だったが、私はポーランド問題やヘンリックさんのことはひとまず頭の隅っこに片づけておいて、八尋白智鳥（やまとけるのみこと）になった倭建命（やまとけるのみこと）のことだの、蝶の形をしたギリシヤのプシケ（魂）のことだのを、舞踊家の姿と重ねあわせて考えながら、庭に出て黄昏の冷気を吸いこみ、夕刊をとりいれた。そしてうわの空で新聞をひろげ、死亡欄に目をやったとき、十河厳氏という親しい名が、ちょうど眼圧検査のときのような、いやな瞬間的圧力でパッと瞳めがけてとびこんできたのである。

終戦後の混乱期に大阪朝日会館の名館長であった十河氏のことは御存じの方も多いであろう。しかし私が知っているのは、引退後、気楽に画筆をとったり、散歩の途すがらぶらりと私の家へ遊びにこられる「近所の御隠居」としての十河さんである。私の息子が幼いころ顔をスケッチして下さったこともあったし、とりわけ、氏の愛孫容子ちゃんと私の娘とが小さいときから仲好しだったので、子供を通してなおさら十河さんには親しみを感じていた。ベレー帽の下から髪をもしゃもしゃはみ出させて散歩される姿を近頃みかけない、と思っていた矢先のこの計報だった。

ヘンリック氏拘留に「魂の形」の舞踊に、そして十河氏の死。なんという日だ。私は食事の支度をする元気もなく、薄暗がりの中にしばらく坐りこんでいた。